

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 12月のFOMCをにらみ、11月の議事要旨をチェック

2022年11月21日

来月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.5%へ利上げ幅が縮小されるとの見通しが広がっています。今年3月に利上げに踏み切った米連邦準備制度理事会(FRB)は、5月の0.5%利上げを経て、6月から4会合連続での0.75%利上げを実施しました。物価高が進む中、消費者物価指数(CPI)は7月分が前年比9%を超えるなど、歴史的な水準となりました。9月のFOMCで示された参加メンバーによる今年年末時点での政策金利水準見通し(ドットプロット)では、11月、12月のFOMCで計1.25%が中心シナリオとなっており、12月の0.5%利上げへの利上げ幅縮小見通しが見られましたが、物価の高止まり懸念もあり、今月10日に発表された10月の米CPIまでは0.75%利上げ見通しとで見通しが分かれる状況となっていました。10月の米CPIは前年比7.7%まで低下。内訳を見ても、遅効性の強い住宅関連価格以外の項目はほとんど下げてきており、物価のピークアウト感が見られます。

もっとも下がったとはいえ前年比7.7%はかなり高い物価上昇率です。次回のFOMCまでには11月の米雇用統計、CPIなどの重要指標の発表を控えており、単月の数字が下がったからと言って、次回の利上げ幅が確実に縮まるというものではありません。またここ最近よく耳にするターミナルレート(利上げサイクルの終着点)についての見通しも分かれる中で、次回以降の米FOMCでの利上げ幅を占う意味でも11月1日、2日に開催されたFOMCに議事要旨は注目される材料となります。

FOMC結果発表時の声明では、物価を目標に戻すための利上げペースの決定にあたって、金融政策のこれまでの度重なる引き締めと、金融政策が経済活動とインフレ率に及ぼす影響の遅れに言及しました。市場はこれを今後の利上げ幅縮小に向けたハト派的な姿勢と考えました。しかし、その後のパウエルFRB議長の会見において、FF金利(政策金利)は9月で示した到達点よりも高い水準に達する可能性に言及。また利上げ停止の議論はかなり時期尚早と発言しています。こちらは一転してタカ派的な印象を与えるものとなりました。

議長は声明のハト派的な表現で、市場が過度に楽観的にならないようにけん制したものと見られます。そうした意味では、12月のFOMCでの0.5%利上げへの利上げ幅縮小はともかく、その後も利上げを継続していくという可能性が高いと見られます。短期金利先物市場動向を見ると、来年1月31日・2月1日のFOMCでの利上げについて、0.5%と0.25%で見方が分かれています。3月21日・22日は0.25%利上げ。ここで打ち止めになるか、5月2日・3日のFOMCでの0.25%利上げを行うかでもまた見方が分かれています。ターミナルレートは4.75-5.00%か5.00-5.25%で意見が分かれています。5.00-5.25%を最低水準とした17日のブロード・セントルイス連銀発言もあり、5.00-5.25%見通しが若干上回っているようです。

こうした利上げペース、利上げ打ち止め時期、ターミナルレート水準についてのヒントが議事要旨でどこまで出てくるのが注目されます。

他の通貨では23日のNZ準備銀行(中央銀行)金融政策会合が注目されます。多くの主要国より早く、昨年10月に利上げに踏み切ったNZ中銀。4月の会合で予想外に利上げ幅を0.5%に広げ、その後5会合連続で0.5%利上げとなっています。

今回の会合では0.75%に利上げ幅拡大が見込まれています。NZの消費者物価指数は第2四半期が前年比7.3%、第3四半期が同7.2%と高い水準での推移が続いています。11月8日に公表されたNZ中銀四半期調査による2年後のインフレ予想は3.62%と、前回の3.07%から大きく上昇し、1991年以来の高水準となりました。1年後のインフレ予想も4.86%から5.08%に引き上げられており、インフレ見通しが強まっている状況です。また、NZ中銀金融政策会合は年7回の変則運用。夏休み(南半球なので)ということもあり、次回は2月

22日まで約3カ月期間が空きます。こうした状況が利上げ幅の拡大見通しにつながっているとみられます。

とはいえ、各国が利上げ幅縮小に向かっており、地政学的にも近い豪中銀が10月時点で利上げ幅を0.25%に縮め、今月も0.25%を維持している中で、利上げ幅拡大はインパクトのある対応。声明など次第ではNZドル買いの材料となる可能性があります。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識 & 儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。